

放送事業者による対応 (札幌テレビ放送株式会社、株式会社STVラジオ)

設備運用状況

本社設備

- ・地震による社屋・放送設備への影響は無し。
- ・停電時は、非常用発電機(1500kVA)にて放送設備(テレビ・ラジオ)に電源供給し、放送を継続。
- ・地下燃料タンク(約6万リットル)により、約4日間の稼働を想定。

災害報道体制が整った段階で館内節電を行い、発電機の燃料消費量減少により稼働日数延長(約5日間)。

・燃料の確保・供給

系列局からの燃料手配(東北より重油運搬)を進めるが、運搬に対する手続き等により実現せず。

取引のある燃料会社においても、震災当日は停電によりポンプが稼働せず、翌日に給油。



1500kVAガスタービン発電機

放送事業者による対応 (札幌テレビ放送株式会社、株式会社STVラジオ)

設備運用状況

テレビ中継局設備

- ・地震による放送設備への影響は無し。
- ・停電時は、非常用発電機や蓄電池により、放送を継続。
- ・長時間停電対応のため、ポータブル発電機を中継局へ持ち込み電源供給。

道北方面中継局の状況

- ・信号機消灯の中、札幌から約5時間かけ出向し、持参した発電機にて電源供給し放送継続。
- ・発電機燃料(ガソリン)の確保が困難であった。幸い、復電が早かった地区のガソリンスタンドにて補給が可能であった。
- ・交代要員が無く、9/6~9/7深夜まで社員2名が山頂の中継局に常駐し、数時間ごとの燃料補給を実施。



持ち込んだ発電機によりバックアップ

放送事業者による対応 (札幌テレビ放送株式会社、株式会社STVラジオ)

設備運用状況

他にもポータブル発電機対応を実施した局があるが、同様に燃料(ガソリン)の確保に苦慮した。

近隣の自治体に相談してガソリンの供給を受け、放送継続を行った局もあった。

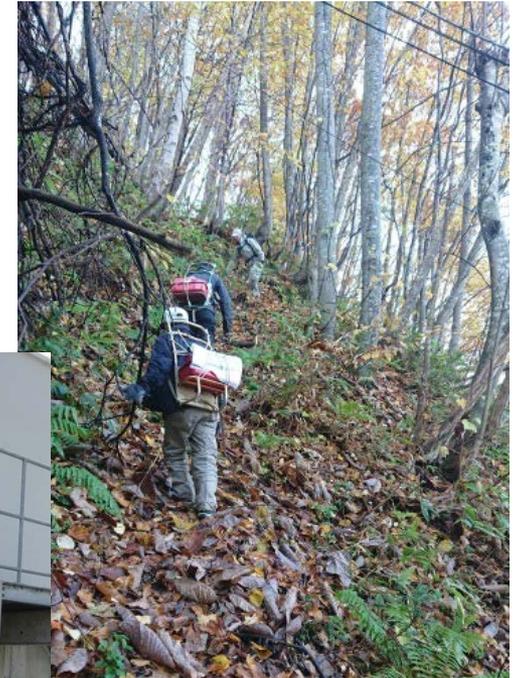
出向条件によっては、人力での運搬も実施。



現地保管発電機によりバックアップ



複数の発電機を使用



人力による運搬作業

放送事業者による対応 (札幌テレビ放送株式会社、株式会社STVラジオ)

設備運用状況

ラジオ送信所設備

- ・地震による放送設備への影響は無し。
- ・停電時は、非常用発電機や蓄電池により、放送を継続。
- ・蓄電池局においては、ポータブル発電機を持ち込み対応。

遠隔地のため、地元電気工事店等に協力を依頼し、現地保管発電機・持ち込み発電機により電源供給。

各所とも停電が長時間にわたり、作業員が常駐し数時間ごとの燃料補給を実施。

燃料確保も困難であったが、地元の繋がりにより確保出来、放送継続を行った。



地元業者により発電機を持ち込み



3. 1kVAディーセル発電機

放送事業者による対応 (札幌テレビ放送株式会社、株式会社STVラジオ)

災害報道状況

■災害発生直後の初動体制

- 3:16 テレビ災害放送「NEWS24」を放送
- 3:30 テレビ「STV緊急特番」を放送(19時まで継続)
- 3:40 ラジオでテレビ音声(特番)を放送
(ラジオ・テレビサイマル放送)
- 4:03 ラジオ災害特番を放送(22時まで継続)



衛星中継車による伝送

テレビ

被災地を中心に約50人が昼夜を問わず取材活動を実施し、道内・全国へ情報発信。系列局からも、スタッフ・中継車・ヘリコプターが応援に駆け付けた。

ラジオ

- ・緊急地震速報による音声自動送出後、各地の震度情報等は、朝番組スタッフ・技術宿泊勤務者のみで速やかに放送。
- ・応援スタッフが緊急出社、体制が整い次第「災害特別番組」を開始(4:03頃～)。
- ・中継班を札幌市内に2班出動(市街地の停電状況、道路状況等を伝える為)。

ネットでの特番同時配信

9/6当日の朝4:43から9/9 12:34まで複数回にわたり配信。
(合計再生回数 約18万回)

放送事業者による対応 (札幌テレビ放送株式会社、株式会社STVラジオ)

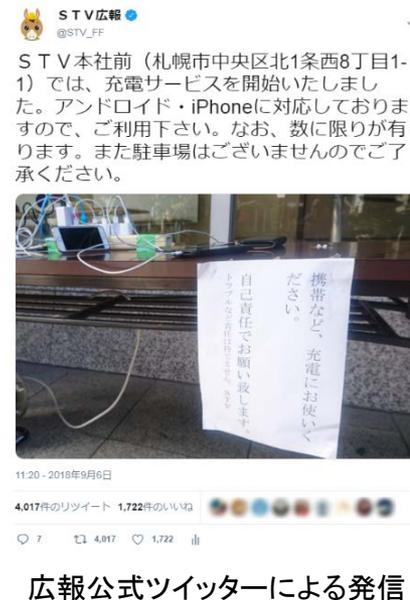
その他対応状況

- ・携帯電話・スマートフォンへの充電サービス
(9/6正午すぎ~16:45)

本社前にて、社内各所から集めた充電器により、沢山のの方々にご利用頂いた。

公式ツイッターでお知らせし、震災当日・翌日は、充電サービスに関して60万超のインプレッションあり。

- ・合わせて、街頭テレビ設置により情報の発信を実施



充電サービスの状況



本社前に街頭テレビを設置